

三江線活性化協議会

平成22年3月5日設置



概要

JR三江線の沿線はほとんどが中山間地域であることから、他地域に比べて人口減少・少子高齢化がより進行し、利用者が年々減少し続ける中、通学生及び高齢者を中心とした交通弱者の移動手段の確保と地域の活性化を図るためには、JR三江線の運行の確保は重要である。一方、JR三江線は清流 江の川に沿って走っており、季節を通じて風光明媚であり、沿線には観光資源が点在している。そこで、日常利用の拡大の可能性調査や観光資源調査などを行い、JR三江線の維持・活性化及び沿線地域の活性化に資する総合連携計画を策定する。

○地域の公共交通（JR三江線）の現況

- ・島根県西部の江津市と広島県北部の三次市を結ぶ鉄道（営業キロ108km）。通院、通学等に利用される沿線住民の生活の足
- ・平成18年に豪雨災害があり全線復旧に1年程度要したこともあり、近年利用客は大きく減少
- ・地域のローカル利用が中心となっており、路線そのものが収益を生みにくい状況

○地域公共交通（JR三江線）の課題

- ・人口減少、少子高齢化の進展は顕著であり、さらに学校の統廃合が進むなど日常利用が減少する中、通学生及び高齢者の通院等交通弱者の生活の足の確保
- ・沿線の風光明媚な景観、海山の食資源等観光客誘致の可能性をもった素材が点在しているが、必ずしも十分活かされていない状況

○調査の主な内容

- ①三江線の現状、公共施設、集客施設等調査
→利用実態、住民ニーズ、周辺公共交通、学校、病院、店舗等の立地状況等の調査
- ②沿線地域資源調査
→風景、食、文化資源等地域資源等調査、観光エージェント等モニター調査
- ③利用促進策検討調査
→日常利用、観光利用の促進策調査（駅舎サロンの試行、臨時列車の運行等の実施）

○地域公共交通総合連携計画の構想（今後検討）

- ・効果的かつ持続可能な利用促進策（日常利用・観光利用）
- ・鉄道を活用した地域の活性化
- ・利用促進に向けた地域住民の自主的な取組み 等

